



「今」「ここから」 価値創造を

桜は、人の思いを映して咲くのだろうか。らんまんの姿で、試練の冬も、必ず栄光の春となることを教え、舞い散る姿で、「時を逃すな」と伝えているかのようだ。

創価大学（東京・八王子市）の中央教育棟と満開の桜。昨年4月

5日、創立者の池田名誉会長がカメラに収めた。それから1年——名誉会長は今年9日、再び夫妻で桜花舞うキャンパスを訪れ、向学の友に励ましを。2日の入学式にはメッセージを贈り、「『英知の道』こそ、人間が人間として、人

間らしく生きゆく『正義の道』」と期待を寄せた。

生きている限り、学びに終わりはない。努力に限界はない。一步を踏み出すこと。きょうの一日を悔いなく戦い切る。そこから「勝利」への道は開けていく。



創価大学で「人間ゲートを語る」と題し、特別文化講座を行う創始者の池田名譽会長。社会のため、自身の勝利のため、生涯学びゆく「精神の王者」たれ——と
(2003年3月、東京・八王子市の創価大学本部棟で)

いつも前進ぜんしんしている。
たえず一歩前いっほまへへと
踏み出あしている——
その人ひとが「勝者しょうしや」である。
きのうの自分じぶんより
きょうの自分、
きょうの自分より
あすの自分を見よ——

そう生きぬく「向上こうじやうの人」こそ、
偉大いだいなる人生じんせいの山やまを
登り切のぼれる人である。
断だんじて強つよくなることだ。
断だんじて賢かしこくなることだ。
悪い人間わるいじんげんから見みくたされような、
弱おく愚おろかな青年せいねんであつてはならない。

偉大な人間だからこそ、
卑小ひしょうな人間に妬ねたまれる。
諸君しよくんは「妬む人」ではなく、
「妬まれる人」になつてもらいたい。
何が真実しんじつで、何が虚偽きぎか。
何が善ぜんで、何が悪あくか。
それを鋭さく見破みやぶる英知えいちの眼めを、
研ぎ澄とましていただきたい。

人間は、とくに青年は、
万事ばんじにおいて
受け身うけみになつてはならない。
生き生きと積極果敢せうききくかかんに、
新しい価値かちを創造そうぞうしていくことだ。
この「不撓不屈ふたうふくの創造力そうぞうりよく」を、
いかに、みずみずしく
湧わき立たせていくか。
ここに、勝負しょうぶがある。

皆さんには、
張り切はつて第一歩だいいっほを踏み出した
「初心しよしん」がある。
大事だいじなのは「今いま」の決心けっしんである。
「これから」の行動こうどうである。
「初心」を堅持けんじしていく生命せいめいは、
みずみずしく
創造力を湧わき立たせていける。
決意けつぎして行動を開始かいしした人は、
現状げんじやうがどうあれ、
すでに勝かつ因いんをつくつた人である。
私は 未来みらいの勝利者しょうりしやの皆さんに、
最大の祝福しゆくふくを贈おくりたい。